

## シンポジウム

# 「ライティングセンター 日本の現状と課題」

2013年3月16日(土)

於：関西大学尚文館1階マルチメディアAV大教室

## 熊本大学の事例紹介

熊本大学ライティング指導室 渡邊淳子

### 1, ライティング指導室の概要

#### 1-1 運営

本学ライティング指導室は、平成21年度文部科学省採択の大学教育推進プログラム(GP)「学習成果に基づく学士課程教育の体系的構築」の一環として、GP最終年度となる平成23年4月に設置された。

全学部の初年次生約1800人を対象に平成23年度より開講されている教養教育科目「ベーシック」(計8回)の中で、「レポート作成の基本」(2回分)を担当していることもあり(図1)、指導室はベーシックのフォローアップ的な性格を有す。

ただ、「書く」ことに対する学生の危機意識は高く、ベーシック受講者以外にも学年、学部を問わず指導室を訪れる学生は多い。指導学生数は平成23年度が延べ1046人、24年度もほぼ同数に達する見込みである。

指導室の運営と学生指導には、統括者の渡邊のほか、TA(大学院生)1人、学部生指導員3人があっている。平成24年度から導入した学部生指導員制度は、前年度に指導を受けた学部学生の中から優秀な者を指導室の支援要員(時給制)として採用するものである。特に本指導室が力を入れている少人数制グループ指導においては、学部生指導員が文章指導のみならず、執筆過程における学生同士のディスカッションやプレゼンテーションなどにおいてファシリテーターとしてグループ全体を



(図1) ベーシックの内容

統括する。指導の中核を学部生指導員に担わせるこの試みは、指導員に採用された学生、指導を受ける学生の双方のモチベーションを高めることにつながっている。

なお、本指導室が関わる正規の授業としては、ベーシック(前期)のほか、「熊日文章講座」(前期)、「論文作成講座」(後期)がある。また、高大連携「実践文章力講座」も毎年担当。いずれも学部指導員がファシリテーターとして関わる。

## 1-2 指導

本指導室の指導は、少人数制のグループ指導と個人セッションの二つの形態からなる。メインとなるのはグループ指導である(表1)。ベーシックの応用編である特別コース、論文作成を通じて高いレベルのスキル習得をめざす論文作成コースの2コースに分かれている。いずれのコースも4~7人からなるグループを複数編成し、原則として週1回のペースで指導する。

個人セッション(予約制)に関しては主に、時間の関係で定期的なグループ指導が受けられなかったり、対人面での問題を抱えるなどの学生に対して行っている。また、グループ指導を受けている学生に対しても、希望があれば文章作成上の相談を受けている。個人予約者は週15~20人。すべて、統括担当者が対応する。

本指導室では、いかなる指導形態であっても、Writing Processの考えに基づき、構想段階から対話やディスカッションを通じ、学生自らによる「気づき」を促すことを目指している。このため、完成された文章を添削するという手法も、原則として採らない。

また、学生の持ち込みによる授業レポートなどにも原則として対応していない。「指導はトレーニングの場である」という考えからである。トレーニングは、指導室が与える共通の課題にそって、主題の絞り込み、資料収集・整理、レジュメ作成、発表、ディスカッションなど、多岐にわたる。一連のトレーニングの中で、学部生指導員は、ディスカッション時の仕切り役となったり、随時学生へのアドバイスを与えるなど、大きな役割を果たしている。

### (表1) 少人数制グループ指導の概要

※1グループ4~7人。いずれも1回90分

- ・特別コース(前期・後期) 週1回×15回程度
- ・論文作成コース(後期) 週1回×15回程度

#### 特別コース指導の流れ

マナー指導 (連絡・時間・対人関係についての基本的な約束事)

↓

課題提示

↓

資料検索・レジュメ作成

↓

発表

↓

ディスカッション ← 学部生指導員

↓

文章作成

(2000~5000字)

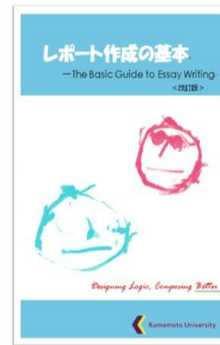
## 2, これまでの取り組みと成果

### 2-1 独自テキストの作成

平成 22 年に独自テキスト『レポート作成の基本』を作成した。学生が手軽に使うことができるように A5 版 30 ページ程度のコンパクトな形とし、レポート・論文作成に最低限必要な知識を構成編と文章編の 2 部に分けて説明している。

テキストは指導室での指導の基本となるものである。平成 23 年度からのベーシックにおいても教材として活用している。指導を通じた中で、改善点を洗い出し、毎年度、改訂を加えてきた。

このほか、高校生用に『レポート作成の基本』の内容をさらにやさしくした高校生向けテキストも作成し、活用している。



・構成編  
序論・本論・結論  
引用の方法  
ダイヤモンド図作成

・文章編  
①短文 ②一文一義  
③ねじれ文を書かない  
④曖昧さを排除する

( 図 2 ) 『レポート作成の基本』

### 2-2 関連講義

#### ・「ベーシック」(前期教養科目)

全学部の初年次生(1800人)が対象。全8コマ中2コマが「レポート作成の基本」。独自テキストを使用。学生に文章の構成を図式化したダイヤモンド図と800字程度の文章を課している。提出された文章を分析することで、本学学生の文章作成における傾向を洗い出し、さらなるテキストの改訂や指導法の開発にも活用している。

#### ・「論文作成講座」(後期学際科目)

平成24年度より、後期に「論文作成講座」(15コマ、2単位)。前年度、1万字程度の論文作成をめざし指導室が独自に開催した同名コースの講義内容を整理したもの。指導室の論文作成コースも機能している。

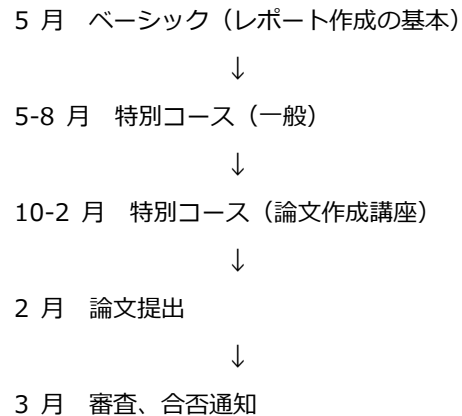
#### ・高大連携「実践文章力講座」

指導室の開設準備期間である平成22年度から高大連携「実践文章力講座」を担当。高校生に論理的な文章とはどのようなものかということから説きおこし、考えのまとめ方や書き方までを指導している。その際、高校生用の独自のテキスト作成し配布している。23年度は100人、24年度は200人が参加。24年度は学部生指導員も支援に回った。

### 2-3 学部生指導員の選抜

平成 23 年度の論文作成コース受講生 10 人の中から優秀な者を選抜し、3 人（いずれも当時 1 年）を 24 年度に学生指導員として採用した。選考に当たっては完成論文の審査を 2 人の教官にお願いした。平成 24 年度からは正課として「論文作成講座」を開講しており、新年度は前年度と同様の審査を行い、指導員を採用する予定。

(図 1) 学部生指導員採用の流れ



### 2-4 指導員の養成と TA の活用

採用された指導員に対しては、スキルアップのために課題を与えながら日常的な指導を行っている。その内容は、文章作成のスキルだけでなく、指導員としての日常の生活態度から周囲の事物や人に接する姿勢にまで及ぶ。また、指導員は独自に毎週 1 回、研修を兼ねたミーティングを開き、自主的な指導室の運営を試みている。その結果、導入 1 年目ながら確実に指導員の意識は高まり、彼ら为目标とする学生も現れている。

唯一の大学院生である TA は、指導員のまとめ役と位置付けている。留学生および希望学生に対する英文ライティング指導も試験的に行っている。また、パソコンの知識を生かし、パソコンによる文章作成指導も担当している。

### 2-5 取り組みの成果

過去 2 年間にわたる上記活動を通し、指導を受けた学生に顕著に認められる効果は以下の通りである。

- 1) アカデミック・ライティングへの明確な意識づけ
- 2) 文章構成を意識することによる論理的思考の涵養
- 3) 異なる学術分野、社会現象等に対する関連付け能力の向上
- 4) ディスカッション、各種発表を通じたプレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力の向上
- 5) 自主的なテーマ設定、資料探しを通じた自律的学習姿勢の涵養
- 6) 学部教育に対する高い関心の保持

#### 熊本大学ライティング指導室

〒860-8555 熊本市中心区黒髪 2 丁目 4 0 - 1  
大学教育機能開発総合研究センター ライティング指導室  
☎ 096-342-2725  
✉ jwata951@kumamoto-u.ac.jp